

人との関わりの中で意欲的に活動できる生徒の育成

～新聞活用を通して、目的を明確にした学び合いを目指して～

妙高市立妙高中学校

1 学校の概要

妙高市立妙高中学校（坂詰浩一校長，生徒数 108 名）は，日本百名山の 1 つ妙高山の麓にあり，四季折々の美しい自然に恵まれた学校である。

当校では，その豊かな自然環境を生かして様々な教育活動を展開している。その 1 つに，春には，全校生徒が参加する竹の子狩り遠足がある。学区の坪岳周辺をフィールドに，生徒自らが採集した根まがり竹を竹の子汁にして食すなど，豊かな自然に触れるとともに，仲間との絆を深める活動を行う。1 年生は，総合的な学習の時間として，妙高学習を行う。半年の間，妙高山の自然，文化，信仰など多様な視点から学び，それらの学習の集大成として，夏休みには妙高山の登頂に挑戦する。

これら教育活動には，地域の有志で組織する MOT48（妙中応援隊）や自治会，保護者などが，生徒の活動を力強くサポートしている。このように，地域・学校・家庭が密接に連携して，教育目標である「自立・貢献・挑戦」に向かって，心豊かな生徒の育成を目指している。

2 NIE 実践のねらい

当校の研究主題は「人との関わりの中で意欲的に活動できる生徒の育成（2 年次）～目的を明確にした学び合いを通して～」である。

学力の向上には望ましい生徒間の人間関係が不可欠である。当校ではこれまで互いを認め合う人間関係の構築を図りながら，生徒が「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」を味わえる授業づくりを継続し，確かな学力と意欲的な学習態度の育成を図ってきた。昨年度は，単元全体を通して指導と評価の一体化を図るために，職員一人一人が授業改善に取り組んだ。

今年度は，さらに学習意欲を高め，「主体的・対話的で深い学び」を実現することを目指して，目的を明確にした学び合いの授業を取り入れることとした。自分の考えを伝え合い，考えを深め広げる学び合いの授業を展開すれば，確かな学力につながると考えた。

NIE 推進にあたっては，新聞活用を通して，学習課題について互いに考えを伝え合い，自分の考えを深める活動を展開することを目指した。また，日常活動では，新聞活用を通して，社会と自分とのつながりを意識し，社会の出来事について自分の意見をもち，それを表現する活動を展開できるようにした。

NIE1 年次の今年度は，校内に生徒が新聞に親しむ環境や，新聞を気軽に活用できる環境の整備に重点を置いた。そして，来年度の 2 年次の実践を見据えて，職員全体で NIE についての理解を深めるための研修や，公開授業研修などを計画した。

今後も生徒と職員の双方にとって，新聞活用が有意義なものになるような取組を学校体制で推進していきたい。

3 本年度の実践の概要

(1) NIE ルームの整備（通年）

新聞を活用しやすい環境づくりの一環として「NIE ルーム」を開設した。NIE ルームでは次のような工夫を取り入れた。

- 生徒は、NIE ルームで新聞記事を自由にいつでも閲覧できる。
- 各教科の授業で、新聞記事を活用できる。
- NIE ルーム後方のロッカーには新聞記事のバックナンバーをストックする。
- NIE ルーム内や廊下の壁面には、掲示スペースを設ける。

その結果、生徒は新聞スピーチの原稿を作成する際に参考となる記事を探したり、授業で使用する記事を探したりする姿が見られた。また、掲示スペースには、生徒の新聞スピーチや妙高中学校に關係する記事を掲示して、新聞に親しむ環境につながった。



【NIE ルーム前の掲示スペース】



【NIE ルーム内の閲覧スペース】

(2) 授業実践と生徒の新聞に親しむ活動（通年）

研修計画の研修内容に新聞活用を位置づけ、各教科の授業で新聞記事の活用を図った。特に、社会科では、授業だけでなく夏休みの課題で新聞形式にまとめる学習活動を取り入れるなど生徒が新聞に理解を深め、親しむ活動を展開した。また、短学活では、新聞スピーチを行った。それぞれの実践の詳細については実践例で後述する。

(3) 校内研修

① 新聞記事活用に関する校内研修（平成 30 年 6 月 18 日（月））

ア 研修内容

新潟日報妙高支局長の山本司様を講師としてお招きし、「NIE 実践に向けた新聞の読み方・親しみ方、活用方法」というテーマで講話をお聞きした。

前半では、新聞社の記者がどのような視点で取材対象を選ぶのか、どのような文体やレイアウトで紙面を構成するのか、など新聞作りのポイントを学んだ。後半では、参加者一人一人が実際に授業で活用ができそうな新聞記事を探し、その活用方法を考えた。職員間で紹介する演習を行い、NIE 推進に向けて職員の意識を高めた。



【山本支局長からの講話の様子】

イ 研修の成果（職員のふりかえりの一部抜粋）

- 役立つ可能性は実際にあるという確認ができた。無理せずに授業の中で使えるような話題を使っていくようにする。
- 新聞をほとんど読む機会がないため、まずは自分で読み、それを生徒に伝えていけたらよいと思った。個人的には i-pod で新聞を読めるようになると環境にも優しいかと思った。
- 初めて記事を書く側のお話を聞くことができ、勉強になった。国語科では、「新聞のような客観性や正確性が求められる文章を書くときに、どのようなことを意識するか」という部分で、「書く分野」の学習で活用したいと思った。
- 事実をどう捉えるか、生徒の考えを引き出すには、記者の考えが載っていない方がいいのだと感じた。

② NIE まとめの校内授業研修（平成 30 年 11 月 12 日（月））

ア 研修内容

1 年次のまとめの校内授業研修では、社会科第 3 学年の公開授業を行った。授業内容については、実践例で後述する。

協議会では、「NIE 推進に向けたポイントと課題を巡る～授業実践と学校環境整備～」というテーマで、来年度の実践に向けて職員間で意見を交換した。また、NIE アドバイザーである上越市立城北中学校教頭の柳澤一輝様から、授業及び協議テーマについての全体指導をいただいた。

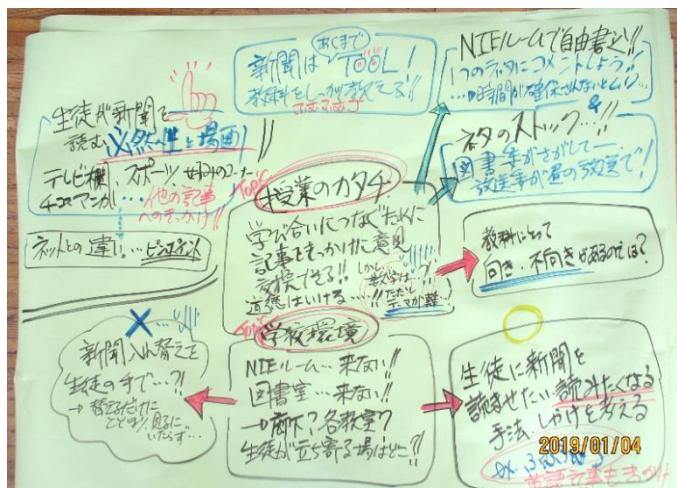


【協議会での発表の様子】

イ 研修の成果

公開授業では、新聞記事を活用した授業の実際を全職員で参観することで NIE 推進に向けて職員全体の意識を高めることができた。

また、NIE アドバイザーの柳澤一輝様からは、現在の教育改革の動きや次期学習指導要領における新聞活用の有効性や、実際の NIE の取組事例について丁寧にご指導いただいた。次年度に向けた環境整備や授業実践の方向性を考える上でたいへん参考になる研修会となった。



【協議会でのグループ記録用紙】

4 実践例

(1) 社会科 3 学年公民的分野「地方自治と住民参加」(実践者 丸山信昭)

ア 単元の目標

地方自治や地方公共団体の政治の基本的な考え方や仕組みを理解するとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識を高める。

イ 本時のねらい

県内外の様々な地域活性化の取組を、新聞記事をもとに分析・評価し、妙高市の地域活性化に生かせるポイントを考え出すことができる。

ウ 授業の実際

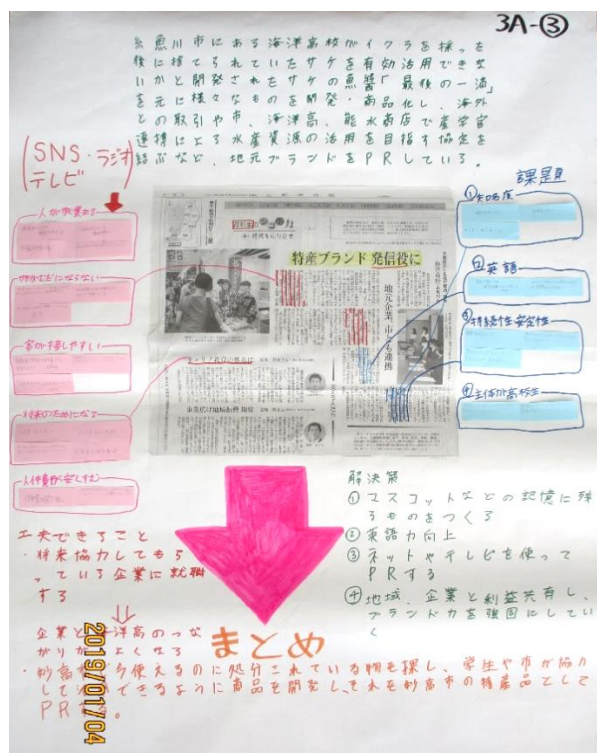
本單元では、地方自治のまとめの学習として、妙高市の地域活性化の在り方について、生徒相互で考えを話し合わせ、提案できることをねらいとした。そのための手立てとして、新聞記事から県内外の地域活性化の取組を探し、それらのプラス面・改善点を分析・評価することで、妙高市の地域活性化のヒントを考えさせた。新聞記事の分析・評価の学習場面では、すべての生徒が自分の考えを表現できるように、KJ 法を用いるなど学習形態を工夫した。個の学び、小集団の学び、全体の学びを授業で意図的に組織して、生徒の思考がより広がるように工夫した。



【新聞記事を分析する様子】



【班ごとの発表の様子】



左の写真は、授業で実際に生徒が作成した学習シートの例である。生徒は、まず地域活性化の取組を紹介する新聞記事を模造紙の中央に貼り、上に概要をまとめた。そして、左右にそれぞれプラス面と課題を分析し、グルーピングやラベリングをした。さらに、プラス面は「さらにもう一步工夫できること」、課題は「解決策」を考えた。

その上で、それら分析結果をもとに、まとめ部分に「妙高の地域活性化に生かせることやアレンジ案」を班ごとに話し合いながら記述していった。

エ 生徒の振り返り（一部抜粋）

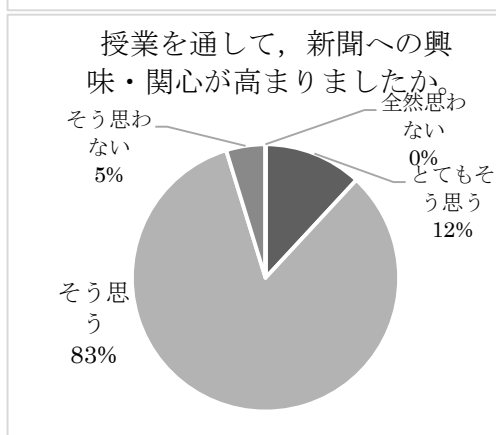
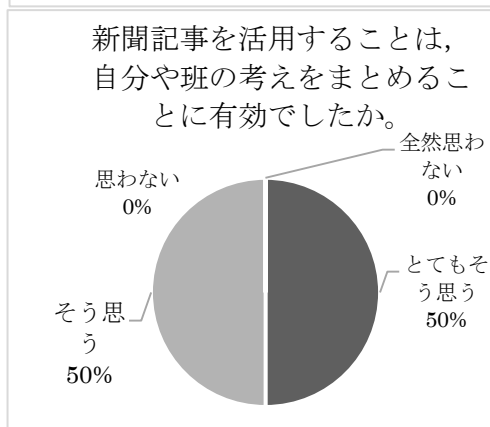
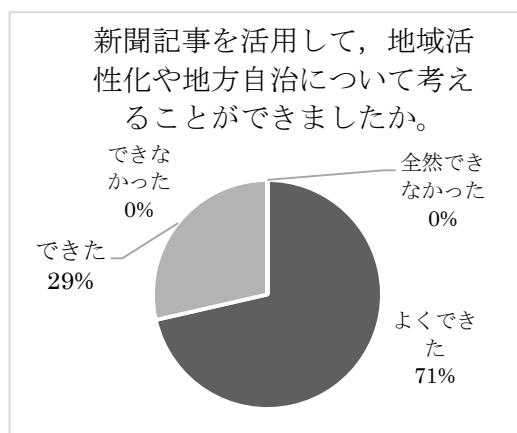
- 記事を取り上げる時に、みんなで話し合っって良さや改善点を考えることができてよかった。他の班の発表を聞いて、いろいろな取組や考え方があったのでおもしろいと思った。これからの妙高について、今回の学習を忘れずに生かせるようにしてきたい。
- 妙高市だけでなく、いろいろなところで少子高齢化や人口減少が進んでいると新聞記事を探していて思った。地域によって特産品やアピールポイントが違うけれど、妙高市に生かせるやり方がたくさんあると思った。県外の人から見て住みたいと思ってもらえる活動ができるとよいと思った。どのような活動でも費用や人が必要になるということも分かったので、その課題の解決が大切だと思った。

オ 授業後のアンケート集計結果から

生徒の授業後のアンケートを見ると、いずれも肯定的な評価であった。新聞記事を活用することで、生徒が考える地域活性化の取組プランはより現実的なものとなった。また、学習を通して、日本が抱える今日的な課題が自分たちの住む地域にも共通して存在することを生徒は理解することができた。

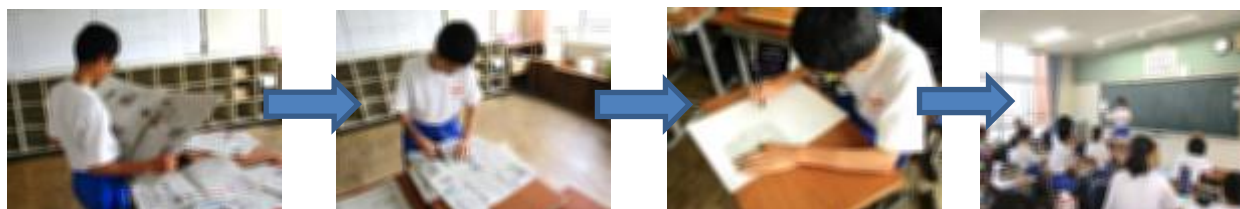
【生徒の新聞活用授業への感想】

- 普段新聞は家にあっても読まないけれど、読んでみたら今まで自分が知らなかったことを知ることができの良いきっかけになることが分かりました。これからは少しずつ読んでみようと思いました。
- 新聞は字が小さくて読みにくいものだと思っていたけれど、今回の授業で1つの記事を何回も読み込んで、いいところや課題などいろいろなことが書かれているのを読み取る学習は楽しかったです。
- 今の時代はインターネットで世の中のことを調べる人が多くて、新聞をあまり読むことは少ないです。でも、新聞はすごく詳しい情報や興味のある記事が載っているの、とてもよいと思いました。
- 「地域活性化」というテーマの違う記事を見付けることは、「地域活性化」自体の意義を考えることができ、妙高の課題である過疎化という身近なことを知ることにもとてもよい機会になった。



(2) 新聞スピーチ

日直の生徒が社会問題や生活の話題など、自分が興味のある記事についてまとめ、短学活で発表する活動を行った。この活動を通して、社会への関心が高まり、まとめる力や表現する力、発表する力を伸ばすことができた。発表原稿は NIE ルーム前に掲示して、誰もが記事と感想がじっくりと読めるように工夫した。本実践の詳細な方法等については、『学力を高める新聞遊び』（新潟県 NIE 推進協議会編）で紹介している。



【閲覧】

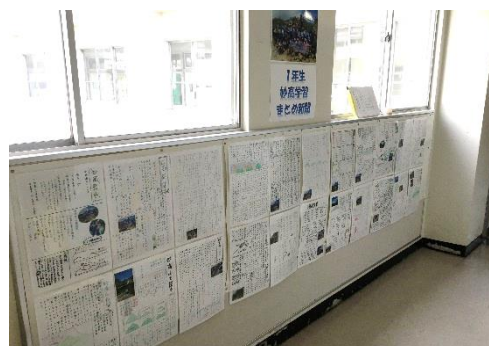
【切り抜き】

【原稿作り】

【発表】

(3) 学習活動のまとめとしての新聞づくり

1 年生では、総合的な学習の時間で取り組んだ妙高学習を各自が新聞形式でまとめる活動を行った。見出しやタイトル等に新聞の要素を取り入れながら、イラストなども活用し読み手が興味をもちやすいようにまとめた。それぞれが作成した新聞は保護者が来校する行事等で掲示し、たいへん好評であった。



【廊下に掲示された妙高学習新聞】

また、社会科では夏休み中の課題として、1 年生で歴史新聞に、2 年生で地理新聞に取り組んだ。地理新聞では、生徒一人一人が異なる都道府県を担当して調べ学習を行い、新聞にまとめた。歴史新聞では、興味のある時代や人物などにテーマを設定してまとめる活動を行った。



【歴史新聞・地理新聞の実際】

5 成果と課題

生徒は新聞活用を通して、社会問題と身近な地域の問題との共通性に気付き、それら社会問題の解決策を具体的に考えようとしていた。自己の考えを深め、根拠として活用することができた。NIE の実践を通して、生徒の新聞への興味・関心は確実に高まり、「主体的・対話的で深い学び」につながっていたことが成果である。また、職員研修や公開授業研修を通して、一人一人の職員は新聞記事を学習資料として活用することの可能性について、理解を深めることができた。

一方、2 年次への課題として、NIE ルームの改善と全職員が関われる体制作りが挙げられる。今年度は NIE ルームの生徒の使用頻度は高くなかった。多くの生徒が新聞に触れ、閲覧する環境づくりを検討する必要がある。さらに一部の職員だけでなく、全職員が連携して NIE の推進に向けて、授業・環境整備・運営等を一層充実させていく必要がある。